

南方風機、風力発電機用回転翼を受注＝武漢国測から1.3億元

24日付の中国紙・中国証券報（B1面）などによると、深セン証取の新興企業向け市場「創業板」に上場する南方風機（本社広東省仏山市）はこのほど、風力発電設備メーカーの武漢国測諾徳新能源（本社湖北省）から出力1000キロワット級風力発電機用の回転翼を追加受注した。受注総額は1億3200万円で、来年中に順次引き渡す見通し。

同社は昨年9月にも武漢国測から同型の回転翼を4000万円で受注しており、今年1～9月に137万元相当を納入している。（時事）



（86）アドレス入力、中国語でOK

野村綜研(上海)咨询有限公司

中国のインターネット市場は近年、急激な発展を遂げている。統計によると、中国のネットユーザーは6月30日時点で3.38億人となっており、世界で最もユーザーの多い国となっている。それでも、中国の全人口に対しては2割程度でしかない。まだ10億人の潜在ユーザーが存在しているのである。

◇中国ドメイン管理機関とMSが提携

ネット上の「住所」を示すドメインの管理機関である「中国インターネット情報センター（CNNIC）」は4月、マイクロソフト（MS）中国有限公司と業務提携した。CNNICは「通用網址（通用ネットアドレス）」と呼ぶサービスを提供している。登録済みの企業名や製品名、サービス名などを「www」や「.com」といったアルファベットを使わずに中国語でウェブ閲覧ソフト（ブラウザ）のアドレスバーに入力すれば、サイトに直接アクセスできるサービスである。CNNICはMSと提携することで、この通用ネットアドレスサービスをインターネット・エクスプローラー（IE）8と統合し、中国語だけでネットを利用できる環境を中国人ユーザーに提供しようというものである。

中国人ユーザーにとって、これは大変利便性が高く、インターネットをより身近なものにする可能性がある。これまでは目的のサイトに接続するには、サイトの完全なアドレスをアルファベットでアドレスバーに入力しなければならなかった。これが間違っていたりすると、接続できないというエラーメッセージが出てしまう。検索してからサイトにアクセスするという手段もあるが、それほど有名でないサイトの場合、探すのに大変な時間と手間が掛かっていた。潜在ユーザーの中には、英語のできない人たちが数多く存在している。特に中高年や高齢者は英語ができないため、アドレスを入力できない可能性が大きい。

◇中国語ドメインも近くお目見え

前述のCNNICとMS中国の取り組みによって、中国人ユーザーは母国語だけでネットにアクセスできるようになる。例えばヤフー中国にアクセスするなら、今までのhttp://cn.yahoo.com/ではなく、中国語名の「雅虎」をIE8のアドレスバーに直接入力すればいい。

またドメインの国際的な管理団体であるICANN（The Internet Corporation for Assigned Names and Numbers）に対し、CNNICは中国語ドメイン名の登録を11月16日に正式に申請している。2010年中には中国語ドメイン名が登場する予定で。

これらの取り組みにより、中国ネットユーザーのより一層の増加が期待される。

（コンサルタント 黎慧珏）